

英国留学する前に 2.

私が初めて英国へ行ったのは、ロンドン(ロイヤル・アルバート・ホール)で行われた世界選手権と、その直後に開催されたブラックプールの全英選手権に参加する為でした。(1963年5月)

ロンドンもブラックプールでもホテルに泊まり、大会に出場したのですが、ロンドンに帰ってきてからは、永吉先生にご紹介戴いたイースト・バトニーのフラット(家具付きの部屋、風呂・炊事場・トイレ付きの)に滞在いたしました。(テムズ河の南で地下鉄の駅にも近い、インドの方が大家さんでした。)

ハマスミス・パレー(ホール)や、レン・スクリブナー氏、ニーナ・ハントさんの教室にも比較的便利で、特に、ハマスミス・パレーは毎週火曜日の夜、ダンサーズ・ナイトとして、プロやアマチュアの選手で賑わい、一流のプロのデモも見られるのが楽しみなのと、昼間、会場を借りてレッスンをしている、ソニー・ビニック氏に、1週間で1ポンド(当時は日本円1,008円・公定)支払うと、何時でも何時間でも練習が出来るのが魅力でした。

私はロンドンについて直ぐ1週間ほど寝込んでしまいました(軽いノイローゼでしたが)、地下鉄に乗っても、バスに乗っても、目に入ってくるものは全て[英語](当たり前!) どれが大切なノータイス(注意書き)なのか、単なるコマースシャルなのか分からず、全てを読んでしまったのが原因でした。

元気になって直ぐ、私だけですが英語の学校を探し始めました。大家さんの助言で地下鉄[ピカデリー・サーカス]を外に出て、[リージェント・ストリート]と平行に北に [マーケット]の間をを5分ほど歩き、左に曲がって直ぐ右側に、L.C.C. (London County Council) ロンドン州自治体の英語学校があるのです。

最初に校長先生のところに案内され、面接を受けました。どんな本を読んだことがあるか? 何の目的で英国に来たのか? などで、次に本を渡され、頁を開けてここからここ迄読む様に、と指示されたのです。

ご存じの通り、日本人は聞く方は駄目でも読むだけですと、ある程度読めるものです。校長先生は、「このクラスに行きなさい」と指示されました。後で聞いたら一番上の「アドバンス」というクラスだったそうです。行ってみて驚きました。スパニッシュ系、イタリアン系、フランス語系など、多種多様な若い(全て10代から20代前半と思われました)人たちが、発音はすごく訛りがあるのに、よく喋るのです。

私は早々に校長室へ逆戻り、「とても自分にはついて行けない。」と話し、その下のクラス「インターミディエイト」に編入させて貰ったのです。

後で聞いたのですが、一番上のアドバンスを修了すると「ローアー・ケンブリッジ」の免状が貰え、それを持って国に帰って、貿易会社や航空会社などに就職するのだそうです。

とに角、聞く方がとてもついていけない私は四苦八苦、約半年間、月曜から金曜日までの毎朝8時から12時まで、自分でも良く続いたと思っています。

文法や会話の教科書など易しいものではありませんでしたが、一日4時間、全て英語で話したり、聞いたりした経験は、後に多いに役立ったと今でも思っています。

学校の近くには「大英博物館」や「ナショナル・ギャラリー」「ナショナル・ポートレート・ギャラリー」少し東へ足を延ばすと「ロンドン博物館」や「テート・モダン」など、見どころは大変に多く、よく学校の帰りに寄ったものでした。

しかも、その殆どが当時は無料で(今は知りませんよ!) 折角高い航空運賃を払って行くのですから一遍は見てく

ることをお勧めいたします。(また、本場のバレエや歌劇なども…)

私は始めから、スクリプナー氏にモダン(今のスタンダード)、ラテンはニーナに習う予定で、日本から予約をして行ったのですが、(1年以上の滞在中は)毎週、同じ曜日の同じ時間、週に1度のレッスンを通しました。

その他は、練習場を確保する為、ビニック氏に2~3週間に1度位、ラテンのベーシックを同じく2~3週間に1度位、ウォルター・レアード氏にレッスンを受けていました。

私は、日本で既に、{アソシエート}、[メンバー]、[ライセンスホルダー]そして[Fellowship]と全ての資格を所持していましたが、英国でも勉強の為に2度の渡英留学中に[モダン]も[ラテン]とも、世界で一番権威のあるとされている、{I.S.T.D.}(Imperial Society of Teachers of Dancing)のMembership と Fellowship を[モダン][ラテン]両部門で取得(全て Highly Commended = 最高成績)いたしましたが、これも、競技・教授とも、後年とても役に立ちました。基本フィガーを確実に、自信を持って踊ることは競技の場でも自分達の踊りを上達させてくれた、と今でも信じています。

私がレッスンを受け、試験会場ともなったのは、キングストンの「アレックス・ムーア・ダンス・スタジオ」でしたが、毎週1回、エリザベス・ロメインさんにお教えを受けていたのです。(雅子も一緒に、片道約40分かけて…)

今迄、如何に知らなかった事が多かったか?日本の試験に比べて、余りにも難しかったか?が実感されました。

「プロとアマの違いは如何に上手に踊ることだけではなく、セオリー(理論)を熟知しているかどうかだ」アレックス・ムーア氏が言われるように、自分で自分の踊りが正しく踊られているか、を理解しなければ、人に感動を与えられる踊りは出来ない、と多くの人に言われました。(基本が如何に大切か、を実感いたしました)

若い選手の皆さん方が渡英留学するならば、是非とも十分な期間とそれ以前の英語の勉強、とロンドンやパリなどに行かれたらば、ダンス以外にも美しいもの、心を洗われる様な感動を見聞されることをも目的とされることを希望しています。